

天然記念物 御池沼沢植物群落 保存活用計画が文化庁の認定を受けました

3月に行いました環境保全ボランティアのみなさんへの説明会でも少し説明をさせていただきましたが、多くのみなさまが楽しみながら保存・活用に取り組み、群落の本質的価値を将来にわたり保存することを意図して策定した「天然記念物 御池沼沢植物群落 保存活用計画」が、令和8年6月19日に文化庁による正式な認定の通知を受けました。

適切に保存・活用するために、群落の様子や変化に即して柔軟に対応していく必要があります。この計画が保存・活用にかかわるすべての方にとっての「道しるべ」の計画にしていければと考えています。「四日市の文化財」ホームページでも掲載をしております。ぜひご一読頂ければ幸いです。



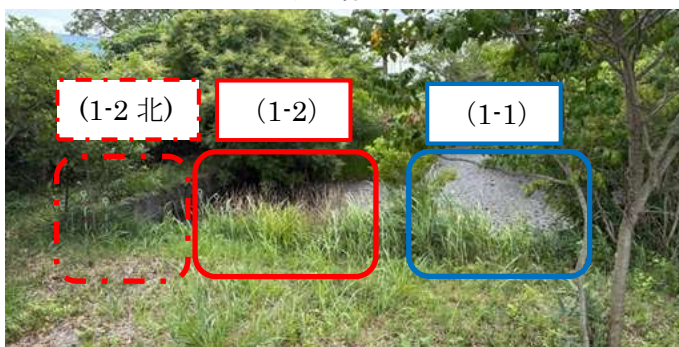
<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/kyouiku/bunkazai/info/r080716.html>

本計画の策定に際しご協力いただきました、四日市市文化財保護審議会の天然記念物担当委員をはじめ、地元三重地区の皆さま、文化庁、三重県教育委員会並びに関係のみなさまに厚く御礼申し上げます。

群落の本質的価値に関わる植物(保全種)を調査、解析を行っています。

～ミクリガヤ・ムラサキミカキグサ・サギソウの様子～

保存活用計画に基づき、現在愛知教育大学の渡邊幹男先生にお世話になり、群落の本質的価値に関わる植物(保全種)の調査、解析を行っています。7月20日、27日にかけてミクリガヤやムラサキミカキグサ、サギソウなど群落の様子を調査していただき、報告を受けました。



まず東部指定地ゾーンⅢ 水域ゾーンにあるミクリガヤについてです。ミクリガヤ(1-2)種子と(1-1)種子は異なる遺伝子をもっている

ということは昨年度VOL140でも紹介しました。(1-2 北)では埋土種子から発芽させるため、昨年12月にかく乱実験を行いました。残念ながら(1-2 北)には、ミクリガヤの発芽の様子が見られていません。渡邊先生からは、年末か年明け除草し、水面際の部分をかく乱してみると埋土種子からミクリガヤが復活するのではないかと報告を受けました。昨年度は、春に播種した種が流されてしまい発芽しなかった場所のミクリガヤですが、ミクリガヤの葉と思われる植物を確認することができました。種ができて人間の背丈ほどに成長するまでには3年ほどかかる。様子を見つめ続けていく必要があります。

西部指定地ゾーンⅤ 湧水砂礫層露出ゾーンの東側湿地部分にムラサキミカキグサが生息、開花している様子を教えてくださいました。モウセンゴケが多く植生している部分です。水の流れや溜まり方に応じて遺伝子解析をすると2つのタイプ(細長くなっている葉と丸い葉)があるようだという報告を受けました。レッドデータではムラサキミカキグサは準絶滅危惧(NT)に指定されている食虫植物です。注意深く見守っていきたいと思います。



8月の活動予定 環境保全活動は計画していません。

9月16日(水)には、上記した愛知教育大学の渡邊幹男先生に群落に来ていただき、環境保全ボランティアのみなさんに群落の様子と保全の仕方を説明していただく予定です。前回天候不順により実施できませんでしたが、次回ぜひ実施できればと思っています。